

ベトナム社会主義共和国カオバン省母子保健改善事業  
事業完了報告書

1. 着手・完了時期

2008年4月9日～2009年3月31日

2. 実施場所

ベトナム社会主義共和国 カオバン省 バオラム郡

3. 事業背景

ベトナム政府は保健医療セクターの戦略において、母子保健の向上を優先課題とし、「安全な母子保健計画」を策定している。2006年、ADRAはベトナムの中で最も妊産婦死亡率の高い省の一つであるカオバン省において、母子保健に関する調査を行なった。その結果、省都から最も離れ、山岳少数民族が多く暮らすバオラム郡では、主に医療専門家の介助のない自宅での出産率が高いこと、保健医療施設の設備や備品が十分に備わっていないこと、また医療の専門知識を持つ人材が不足していることなどが判明した。そこでADRAは、1) 最も住民に近い村の保健員および伝統的産婆に対する人材育成と、2) 医療施設の設備や備品の充実による母子保健サービスの向上により、妊産婦死亡率の改善を図る活動を計画した。

このうち、本事業では2)に挙げた医療施設の設備や備品の充実による母子保健サービスの向上のため、①コミュニティ診療所への基本的な産科用医療機器の供与、ならびに②郡病院の水システムの改善を行なうこととした。

4. 目的および目標

- 1) 目的：バオラム郡における妊産婦死亡率を改善する
- 2) 目標：①バオラム郡の全てのコミュニティ診療所が、最低限の母子保健サービスを提供できる医療機器を整えている。  
②バオラム郡の郡病院において、設置された水供給システムが安全な水を供給している。

5. 資金源

日本国際協力財団、一般寄付金など

6. 事業内容

【医療機器の供与】

バオラム郡の予防センターと協議の上、ベトナム政府が「安全な母子保健計画」に掲げる「コミュニティ診療所が必要とする医療機器リスト」の中から、特に必要性の高い機器（診察用ライト、新生児用酸素吸入器、出産介助キット、子宮頸部検診チェックキット、メジャーテープ）を選択した。バオラム郡の予防医学センターが医療機器の調達を行ない、郡内の全てのコミュニティ診療所（14箇所）に機器を配布するとともに、全てのコミュニティ診療所の助産師を対象に、配布した医療機器の使用方法和メンテナ

ンスに関する研修を2日間に渡って実施した。

事業日程と詳細：

2008年4月9日	カオバン省保健局に事業の実施について情報を共有
5月2日～20日	ADRA Japan 職員が、現地でカオバン省保健局およびバオラム郡予防医学センターと事業の実施内容について協議
9月	ADRA Vietnam がバオラム郡予防医学センターを訪問、医療機器の調達について調整
10月27日～31日	ADRA Japan 職員が、現地でADRA Vietnam と今後の取り組み方について調整、バオラム郡でモニタリングを実施（贈呈式の参加、コミュニン診療所1箇所への訪問）
10月30日 (バオラム郡病院)	贈呈式の開催 参加者：バオラム郡人民委員会副委員長、 バオラム郡病院職員、 バオラム郡予防医学センター職員、 コミュニン診療所職員
11月23日～26日	ADRA Japan 職員がバオラム郡でモニタリングを実施（研修の視察、コミュニン診療所2箇所への訪問）
11月24日～25日 (バオラム郡病院)	研修の実施 講師：バオラム郡病院副院長 (Dr. Dao Thanh Lam) バオラム郡予防医学センター長 (Dr. To Thi Hanh) 参加者：コミュニン診療所職員 14人 (医師1人、準医師1人、看護師1人、助産師11人) 内容：配布した医療機器の使用方法和メンテナンス
11月25日	医療機器の配布 対象：バオラム郡の全てのコミュニン診療所 (14箇所) 内容：各コミュニンに以下のものを配布 【診察用ライト1個、新生児用酸素吸入器1個、 出産介助キット1式、子宮頸部検診チェックキット1式、 メジャーテープ1個】
2009年3月1日～9日	ADRA Japan 職員がモニタリングを実施（バオラム郡保健局、コミュニン診療所3箇所訪問）

#### 【水供給システムの改善】

カオバン省保健局及びバオラム郡病院と協議を行ない、予定していた水源地の現地調査を行なった。その結果、予定していた水源地が山の頂上にあり、計画していた水システムの設置と設置後のメンテナンスが困難であることが判明した。再度カオバン省保健局とバオラム郡病院と協議を行ない、患者とその家族が入院中に必要とする水の供給および、既存の病院の水システムのための安定した電力の確保が

急務であることを確認した。そこで、病院の敷地内に貯水槽 1 基の設置と既存の水システムの改善を行なうこととした。

貯水槽の設置箇所は、患者と家族が利用しやすいように病院内の患者用調理場と病棟の間とし、大きさは、患者が必要とする調理と飲み水がまかなえる量が確保できる大きさ（10 m<sup>3</sup>）とした。

既存の水システムは川の反対岸から電気を引いて給水ポンプを稼働させて給水していたが、電柱（木製）が川の中に立っていたため、洪水のたびに電柱が流されてしまっていた。本事業では、新たにセメント製の電柱を設置し、同岸で給水ポンプとハブの電柱をつないだ。また、これまでは給水ポンプが 1 台しかなく、2 年間整備することなしに使い続けていたため、修理が必要であった。そこで、新たに給水ポンプ 1 台を設置し、2 台の給水ポンプを交互に使えるようにした。

事業日程と詳細：

2008 年 4 月 9 日	カオバン省保健局に事業の実施について情報を共有
5 月 2 日～20 日	ADRA Japan 職員がカオバン省保健局およびバオラム郡病院事業実施内容について協議
9 月	ADRA Vietnam がバオラム郡病院と水システムの工事について調整
平成 20 年 9 月 16 日	バオラム郡病院が資材の調達開始
10 月 23 日～26 日	ADRA Japan/Vietnam 職員がバオラム郡でモニタリングを実施
10 月 30 日	贈呈式の開催 出席者：同医療機器の贈呈式
11 月 11 日～26 日	ADRA Japan 職員がカオバン省およびバオラム郡でモニタリングを実施
11 月 19 日 (バオラム郡病院)	水システムの完成と使用の開始 内容：貯水槽 1 基（10m <sup>3</sup> ）、電線、電柱 16 本、 電気ポンプ 1 基
2009 年 3 月 1 日～9 日	ADRA Japan 職員がモニタリングを実施

## 7. 実施による成果と自己評価

### 【医療機器の供与】

バオラム郡の全てのコミュニン診療所が、「最低限の母子保健サービスを提供できる医療機器を整えている」という目標を達成し、コミュニン診療所の質の向上に寄与したといえる。

事業実施前はバオラム郡の全てのコミュニン診療所に医療用ライトがなかったため、診察、または出産後の縫合処置や避妊処置の際、職員の一人が懐中電灯を持ち、一人が処置にあたっていた。しかし、医療用ライトにより、懐中電灯による介助が不要となり、一人で処置を行なうことが可能となった。また、医療用ライトにより、十分な明かりの下、診察と治療にあたるできるようになった。さらに、出産後の患部の縫合を行なう際、訪問したコミュニンでは、患部の周りの皮膚を縫合して押さえた上で、患部の縫合処置を行なうこともあったようであるが、出産介助セットで皮膚を押さえることで、患部意外の皮膚を縫合せずに処置ができるようになった。処置が行ないやすくなり、作業がスムーズになったことで患者への負担も軽減した。また、機器の使用により、手で直接患部を触らなくなったため、衛生

面でも改善が図られた。今回配布した医療機器の消毒の方法や取り扱い方法については研修を行なったため、診療所の職員が長期的に活用することができるようになるものと期待される。

医療機器の研修は、郡病院の副院長により行なわれた。副院長が研修の指導を行なうのは初めてのことであったが、事前に他の医師と研修内容について準備を行ない、研修後は参加者から不明点や改善点について積極的に意見を聞いていた。研修は指導役を務めた郡病院副院長にとって貴重な経験となった。参加したコミュン診療所の職員は医学校を卒業しているため、研修内容の多くは新しい情報ではなかったが、多くの参加者が配布された医療機器をこれまで診療所で実際に使用した機会がなかったため、研修で機器の使い方とメンテナンス方法について実習できたことは有意義であった。なお、参加者の多くは、通常他のコミュン診療所の職員と交流する機会が少なかったため、研修が日ごろの疑問点や課題を共有し、情報交換をするために役立った。

事業の実施が予定よりも遅れたため、バオラム郡における妊産婦死亡率を減らすという目的については、実際にどの程度の効果があったのかについて把握するには至らなかった。しかし、現時点においても、配布した医療機器はコミュン診療所の医療サービスの向上に少なからず貢献しているといえる。

#### 【水供給システムの改善】

設置した貯水槽と水システムの改善により、バオラム郡病院の患者とその家族に必要な水を安定的に供給できるようになった。

患者と付き添いの家族は炊事のために調理場から離れた貯水槽に行く必要がなくなったと同時に、入院中に最低限必要な水を得ることができるようになった。しかし、全ての患者と付き添いの家族が炊事と洗濯のために水を使うと、水が足りなくなる可能性があるため、病院側は患者が洗濯のために貯水槽の水を使用することを制限している。そのため、現在もほとんどの入院患者と付き添いの家族は川で洗濯をしている。

また、電柱を木製のものからセメント製のものに変えたことに加え、ハブの電柱と給水ポンプをつなげたため、洪水によって電柱が流されることなく、安定した電気によって給水ポンプを稼動することが可能となった。さらに、新しい給水ポンプと古いポンプを2台で交代して使うことで、長期的かつ安定的に給水することができるようになった。

バオラム郡における妊産婦死亡率を減らすという目的については、数値が表れるまでには至っていないが、入院患者とその家族が病院でより快適に過ごせる環境を整え、患者が治療に専念するための医療サービスの向上に役立ったといえる。

#### 【事業の実施】

当初、水の給水システムの改善と医療機器の配布事業は、ADRAの職員がバオラム郡に駐在し、村の保健員と伝統的産婆への研修のための事業と併せて行なう予定であった。しかし、村の保健員と伝統的産婆への研修のための事業が予定していたようには進まず、実施には至らなかった。そこで、ADRA職員が出張ベースで現地を訪れ、調整を行ないながらの事業実施となった。

事業開始当初は、現地の保健局や病院とのコミュニケーションが思うように図れず、計画よりも実施時期が遅れてしまった。しかしながら、事業の多くの部分をバオラム郡の予防医学センターや郡病院に任せることになり、結果として予防医学センターや郡病院の職員が、事業の中心的役割を担うことにな

り、現地の人びとが主体的に事業の実施に関わることになったことは大きな成果となった。

## 8. 今後の展望と課題

### 【医療機器の供与】

今回の事業を通じて 5 箇所のコミュニケーション診療所を訪問し、コミュニケーション診療所の職員や村の保健員にインタビューを行なった。ADRA が過去に行なった調査結果と同様に、住民が自宅での出産を好むのは、コミュニケーション診療所で働く職員と住民との言語が異なり、コミュニケーションが困難であること、また、診療所へのアクセスが限られていることなどが挙げられた。なお、住民は普段から診療所や病院に行く習慣があまりないため、妊娠中や出産時にも特に問題が見られない場合には、診療所に行く必要をあまり認識していないことを再確認した。

さらに、各コミュニケーション診療所によってサービスの質が違うことなどが分かった。訪問したコミュニケーション診療所の中には、住民とコミュニケーションを図る工夫や、自主的にコミュニケーション診療所の職員が村の保健員と伝統的産婆に研修を行なうなど、医療サービスの向上のために積極的に取り組む診療所もあった。一方で、山岳地帯のため道路事情が悪いこと、交通手段が限られていること、さらに少数民族が多く住んでいることなどを理由に、サービスの向上に前向きに取り組む姿勢の見られない診療所もあった。新しい知識のための研修もさることながら、各コミュニケーション診療所がお互いに学びあう機会を増やし、郡の中でお互いに研鑽を積むことが求められていると考える。このためには、コミュニケーション診療所の職員が他のコミュニケーション診療所の職員と会って情報を交換し、お互いに切磋琢磨し、医療サービスを高める工夫が求められる。

ADRA は今後もバオラム郡の保健局と連携し、バオラム郡の医療サービスの向上につながるための事業の実施に取り組む予定である。

### 【水供給システムの改善】

本事業を通じて、患者と付き添い家族が入院中に最低限必要な水の確保は可能となった。しかし、病棟内にあるトイレを使用するための水が十分足りていないこと、患者とその家族が川で洗濯せざるを得ない状況など、現在もバオラム郡病院に水が充足されているとは言えない状況である。また、患者やその家族は自宅で水道の蛇口を使っていないので、使用方法を知らない人が多い。そのため、水が出っぱなしになることや、蛇口を無理やり回すため、修理を必要としている箇所も、事業終了時点で既に存在した。病院が貯水槽を長期的かつ有効に活用できるように、給水システムの基本的知識の普及が不可欠である。郡病院は、患者とその家族が病院の設備を有効に活用し、治療に専念できる医療サービスを提供するためにさらに取り組みを必要とすることを認識している。ADRA は郡病院の今後の対応に期待し、モニタリングを行なっていく。

以上



収支報告書

(2008年4月9日～2009年3月31日)

**収入の部**

日本国際協力財団(助成額)	1,000,000 円
バオラム郡病院	31,376 円
一般寄付金	812,709 円
<b>合計</b>	<b>1,844,085 円</b>

**支出の部**

科目	日本国際協力財団	バオラム郡病院	一般寄付金	支出合計
<b>現地活動費</b>				
医療機材供与	¥349,345			¥349,345
水供給システムの設置 調整・モニタリング	¥268,432	¥31,376		¥299,808
	¥107,300			¥107,300
	<b>¥725,077</b>	<b>¥31,376</b>	<b>¥0</b>	<b>¥756,453</b>
<b>現地人件費</b>				
マネージャー・通訳	¥107,331		¥5,598	¥112,929
	<b>¥107,331</b>	<b>¥0</b>	<b>¥5,598</b>	<b>¥112,929</b>
<b>本部スタッフ派遣費</b>				
本部スタッフ派遣費	¥167,592	¥0	¥96,361	¥263,953
	<b>¥167,592</b>	<b>¥0</b>	<b>¥96,361</b>	<b>¥263,953</b>
<b>本部管理費</b>				
本部管理費(人件費、その他)	¥0	¥0	¥710,750	¥710,750
	<b>¥0</b>	<b>¥0</b>	<b>¥710,750</b>	<b>¥710,750</b>
<b>事業費総額</b>	<b>¥1,000,000</b>	<b>¥31,376</b>	<b>¥812,709</b>	<b>¥1,844,085</b>